



E コマンド

この章では、E で始まる Cisco NX-OS イーサネット コマンドおよび仮想イーサネット コマンドについて説明します。

encapsulation dot1Q

指定されたサブインターフェイス上でトラフィックの IEEE 802.1Q カプセル化をイネーブルにするには、**encapsulation dot1q** コマンドを使用します。カプセル化をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

encapsulation dot1Q *vlan-id*

no encapsulation dot1Q *vlan-id*

構文の説明

<i>vlan-id</i>	インターフェイスがアクセスモードのときに設定する VLAN。有効な値は 1 ~ 4093 です。内部スイッチ用に予約されている VLAN は除きます。
----------------	---

コマンド デフォルト

カプセル化なし

コマンド モード

サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

IEEE 802.1Q カプセル化は、イーサネット インターフェイスおよび EtherChannel インターフェイスで設定できます。IEEE 802.1Q は、複数のスイッチとルータを相互接続し、VLAN トポロジを定義するための標準プロトコルです。

VLAN ID をサブインターフェイスに適用するには、**encapsulation dot1q** コマンドをサブインターフェイス範囲コンフィギュレーション モードで使用します。



(注)

このコマンドは、ループバック インターフェイスには適用されません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、VLAN 30 のサブインターフェイスでの dot1Q カプセル化をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5.1
switch(config-subif)# encapsulation dot1q 30
switch(config-subif)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show vlan dot1Q	VLAN の dot1Q カプセル化情報を表示します。

errdisable detect cause

アプリケーションで errdisable 検出をイネーブルにするには、**errdisable detect cause** コマンドを使用します。errdisable 検出をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

errdisable detect cause {all | link-flap | loopback}

no errdisable detect cause {all | link-flap | loopback}

構文の説明

all	すべての状況でエラー検出をイネーブルにします。
link-flap	リンクステートフラッピングの errdisable 検出をイネーブルにします。
loopback	ループバックの errdisable 検出をイネーブルにします。

コマンドデフォルト

イネーブル

コマンドモード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

errdisable 検出がイネーブルになっており、原因がインターフェイスで検出された場合、インターフェイスは errdisable ステートになります。これは、リンクダウン ステートに類似した動作ステートです。

例

次に、リンクステートフラッピングの errdisable 検出をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# errdisable detect cause link-flap
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
errdisable recovery	errdisable ステートからの回復を設定します。
show interface status err-disabled	インターフェイスの errdisable ステートを表示します。

errdisable recovery cause

インターフェイスを **errdisable** ステートから解除し、アップ状態への移行をリトライするようにアプリケーションを設定するには、**errdisable recovery cause** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
errdisable recovery cause {all | bpduguard | failed-port-state | link-flap-recovery |
pause-rate-limit | udld}
```

```
no errdisable recovery cause {all | bpduguard | failed-port-state | link-flap-recovery |
pause-rate-limit | udld}
```

構文の説明

all	すべての原因からタイマーが回復できるようにします。
bpduguard	ブリッジプロトコルデータユニット (BPDU) のガード errdisable ステートからタイマーが回復できるようにします。
failed-port-state	スパンニング ツリー プロトコル (STP) の set port ステート障害からタイマーが回復できるようにします。
link-flap	リンクステート フラッピングからタイマーが回復できるようにします。
pause-rate-limit	ポーズレートリミット errdisable ステートからタイマーが回復できるようにします。
udld	単方向リンク検出 (UDLD) の errdisable ステートからタイマーが回復できるようにします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

errdisable 回復がイネーブルの場合、インターフェイスは自動的に **errdisable** ステートから回復し、デバイスによりインターフェイスのアップがリトライされます。

例

次に、リンクステート フラッピングからの **errdisable** 回復をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# errdisable recovery cause link-flap
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
errdisable detect cause	errdisable (err-disabled) の検出をイネーブルにします。
show interface status err-disabled	インターフェイスの errdisable ステータスを表示します。

errdisable recovery interval

インターフェイスを **errdisable** ステートから解除する回復時間の間隔を設定するには、**errdisable recovery interval** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

errdisable recovery interval *time*

no errdisable recovery interval

構文の説明

time errdisable 回復時間間隔。有効な範囲は 30 ～ 65535 秒です。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.2(1)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

errdisable 回復がイネーブルの場合、インターフェイスは自動的に **errdisable** ステートから回復し、デバイスによりインターフェイスのアップがリトライされます。

デバイスは 300 秒待機してからリトライします。

例

次に、errdisable 回復時間間隔を 100 秒でイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# errdisable recovery interval 100
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
errdisable recovery cause	インターフェイスの errdisable 回復をイネーブルにします。
show interface status err-disabled	インターフェイスの errdisable ステートを表示します。

erspan-id

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) セッションのフロー ID を設定するには、**erspan-id** コマンドを使用します。フロー ID を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

erspan-id *flow_id*

構文の説明

flow_id ERSPAN のフロー ID。指定できる範囲は 1 ~ 1023 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ERSPAN セッション コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、ERSPAN セッションのフロー ID を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# erspan-id 100
switch(config-erspan-src)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip dscp	ERSPAN トラフィックのパケットの DSCP 値を設定します。
ip ttl	ERSPAN トラフィックの IP 存続可能時間 (TTL) 値を設定します。
mtu	SPAN パケットの最大伝送ユニット (MTU) サイズを設定します。
vrf	ERSPAN トラフィックの転送の VRF を設定します。
monitor-session	ポート間トラフィック分析のために、ERSPAN または SPAN セッションを設定するためのモニタ コンフィギュレーション モードを開始します。

extension-key

拡張キーを vCenter Server に接続するために使用するようには **extension-key** コマンドを使用します。

extension-key *extn-ID*

構文の説明	<i>extn-ID</i>	拡張 ID。この ID には最大で 80 文字の英数字を指定できます。
--------------	----------------	-------------------------------------

コマンド デフォルト	なし
-------------------	----

コマンド モード	SVS 接続コンフィギュレーション モード
-----------------	-----------------------

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン	このコマンドには、ライセンスは必要ありません。
-------------------	-------------------------

例	次に、vCenter Server の拡張キーを設定する例を示します。
----------	-------------------------------------

```
switch# configure terminal
switch(config)# svs connection SVSConn
switch(config-svs-conn)# extension-key vckey
switch(config-svs-conn)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show svs connections	SVS 接続の情報を表示します。
	svs connection	SVS 接続をイネーブルにします。